

## 2024年1月21日（日）第二礼拝 「イサクの祝福」創世記 26章 12-14節

神様はアブラハムに永遠の祝福の約束をなされました。イサクも、ヤコブもその約束を信じ、その子孫は祝福を受けました。祝福は信じる人たちに継承されていきます。神様は私たちにアブラハムの祝福を約束されています。信仰を持って受けとりましょう。

第一番目、イサクは神様の御言葉に従順でした。「イサクはその地に種を蒔き、その年に百倍の収穫を見た。」(創世記 26:12) 「その年」とは大飢饉の年です。アブラハムの時代にも飢饉があり、アブラハムはエジプトに下って行きました。しかし、神様はイサクに、「エジプトに下るな。わたしがあなたに示す地(飢饉のある地)に住みなさい。あなたはこの地に、滞在しなさい。わたしはあなたとともにいて、あなたを祝福しよう。」と言われました。しかし現状は厳しく、家畜は次々と死に、水や食物も無くなる中でイサクは種を蒔きました。遊牧民であったイサクは種まきの経験がありませんでしたが、神様の御言葉に従順した結果、イサクには百倍の収穫がありました。このように、自分の思いを捨て、神様の御言葉に従順する時に、祝福が伴います。今年から取り組んでいる聖書を一年に一読するプログラムを通して、私たちもまた御言葉にある祝福の約束を受けとることができるのです。

第二番目、イサクは柔和な人でした。イサクは次々に神様からの祝福を受けました。そのため、ペリシテ人はイサクを妬み、アブラハム時代に掘った全ての井戸を塞ぎ、その土地から追い出しました。しかし、イサクは自分がどこに行っても神様が守ってくださると信じました。イサクが井戸を掘ると水が出ました。しかし、そこにもペリシテ人がやって来て争いを起こしました。このようなことが二度続きましたが、三度目に井戸を掘りあてた時には争いは起きず、その名をレホボテと呼びました。「柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。」(マタイ 5:5) 「主は私たちの羊飼い。私は、乏しいことはありません。主は私を緑の牧場に伏させ、いこいの水のほとりに伴われます。」(詩篇 23:1.2) 主の祝福を信じ、この地で争わず、かえって柔和な行動をとるならば、神様は私たちに地を相続させてくださいます。

第三番目、主の慰めと祭壇です。イサクが祭壇を築いた時、神様が現れてくださり、彼を慰めてくださいました。行く先々で神様を信じ、へりくだり、祝福していたイサクに神様は臨まれたのです。「…わたしは、高く聖なる所に住み、心碎かれて、へりくだった人とともに住む。へりくだった人の霊を生かし、碎かれた人の心を生かすためである。」(イザヤ 57:15) 祭壇の前で自分の知識、感情、意志を全て捨てる時、代わりにイエス様の知識、感情、意志と主イエスの御名が与えられます。「イサクはそこに祭壇を築き、主の御名によって祈った。」(創世記 26:25) 頼るのは主の御名だけです。神様は主の御名を呼ぶ者と共におられ、祝福してくださいます。異邦人であるペリシテ人はそのことを見ました。同じように、クリスチャンではない、周りの人たちから、「神様はこの教会におられ、ここに行けば癒され、回復する」と言われるようになると信じます。アーメン！